

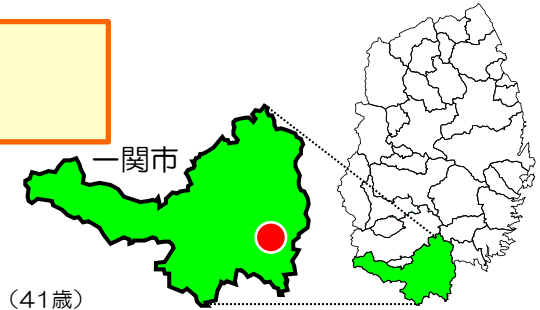
○ 中山間地域における活用事例

# 4 新規就農者など若い担い手への農地集積に向けた取組（一関市 室根町第12区）

アプローチ			
人・農地	受け手	集約化	基盤整備
○	○	○	

## 事例のポイント

- ①第12区の若い担い手への農地集積による地域農業の活性化
- ②新規就農者への農地確保により経営の確立を支援



### 地域概要と課題

- ◆「**室根町第12区**」は、一関市の人・農地プランの「上折壁地区」に位置する集落（室根町矢越）で、全域が**中山間地域**
- ◆第12区自治会（94戸）は、「森は海の恋人」をキャッチフレーズに、隣接する宮城県気仙沼市の漁師とともに**植樹運動を28年間継続**。この村づくり活動が高く評価され、平成21年度豊かな村づくり全国表彰事業で**農林水産大臣表彰**
- ◆しかし、地域の基幹産業である**農業従事者の高齢化**や、**基盤整備の遅れ**による**農地の遊休化**などにより、農業生産の停滞が目立ち始めている



小岩大輔さん（41歳）  
 ◆水稲+和牛繁殖+トマト  
 ◆高齢化による離農農地など5.8haを農地中間管理事業で集積  
 ◆主食用米、飼料用米、牧草を生産



### 地域への働きかけ

- ◆「**新規就農ワンストップ相談会**」（一関地方の農業関係機関・団体が開催）において、**若い担い手からの農地相談をきっかけに、地区の人・農地の問題を考える機運が高まった**
- ◆そこで、**一関市室根支所産業経済課と機構の農地コーディネーター**が農地中間管理事業について説明し、事業活用によるメリットなどに理解を深めながら、**マッチング活動を展開**



小岩大輔さんへの農地の集積・集約の状況

### 今後の取組

- ◆当該集落は、集落内に**経営作目の異なる若い担い手が複数存在**
- ◆この若い担い手たちが、互いに刺激しあいながら、当該集落のみならず、**周辺集落まで含めた農地を積極的に活用**し、各々の経営実績を伸ばしている
- ◆こうした**若い担い手が中心となって頑張っている姿が、他産業従事からの新たな就農のきっかけ**となっている
- ◆今後も関係機関が一体となって、若い担い手を中心とした取組を引き続き支援するとともに、機構は、規模拡大意向を持つ担い手や新規就農者に対し、農地中間管理事業による農地の集積・集約を支援していくこととしている

小岩豊さん（32歳）  
 ◆リンゴ専作経営の新規就農者  
 ◆樹園地2.5haを農地中間管理事業で集積  
 ◆今後もリンゴの規模拡大を図る



小野寺隆好さん（31歳）  
 ◆野菜専作経営を目指す新規就農者  
 ◆畑0.7haを農地中間管理事業で集積し、ビニールハウスを設置  
 ◆今後はピーマンの生産拡大を図る

(有)あぐりすむヤスバ 岩淵晃一さん（42歳）  
 ◆酪農経営  
 ◆遊休農地1.6haを農地中間管理事業により集積  
 ◆自給粗飼料の安定的な確保を図る

